



関東歯内療法学会

第1回 Web 学術講演会

テーマ

歯内療法における保存の限界を見極める

2021年2月7日(日)

開催方式: Zoom ウェビナー配信

主催

関東歯内療法学会

会長のご挨拶

石井 隆資

関東歯内療法学会 会長

Web 学術講演会 開催にあたって

ここ数年、関東歯内療法学会（KEM）の大会は秋葉原のホールで開催していましたが、2021年はwebで開催することとなりました。

2020年の大会を開催した際には、まさかこのような事態が起き、未だに終息が見通せない状況になるとは思ってもいませんでした。その後、KEMでは2020年のハンズオンセミナー、サマーセミナーも延期としました。

このようなコロナ禍での状況を踏まえて、KEMでは新たな展望として、「KEMは歯内療法でお悩みの臨床医に寄り添います」、というテーマを掲げました。

今回、KEMではWeb学術講演会と銘打って、「歯内療法における保存の限界を見極める」というテーマで講演会を開催いたします。KEMが誇る常任理事の講師陣が、皆様が訊いてみたいけど訊けなかった内容を掘り下げ、講演を行います。

JEAの会員・非会員を問わず、事前登録すれば無料で視聴できますので、是非お知り合いにも教えてあげてください。講演終了後にはアンケートもございますので、忌憚のないご意見をお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

それでは多くの先生方のご参加を、心よりお待ちしております。

タイムテーブル

- 9:30～9:40 開会の辞
- 9:40～9:45 学会長挨拶（石井 隆資 先生）
- 9:40～10:10 第1回講演：三橋 晃 先生
- 10:15～10:45 第2回講演：和達 礼子 先生
- 10:50～11:20 第3回講演：澤田 則宏 先生
- 11:25～11:55 第4回講演：西田 太郎 先生
- 12:05～12:40 質疑応答 & ディスカッション
座長：石井 隆資 先生
- 12:40～12:45 閉会の辞（金丸 順策 先生）

第 1 回講演

根管治療 ～私があきらめる時～

三橋 晃 先生

講演概要

いつもの症例。根管治療を開始したが、治療に反応しない。洗浄、消毒、貼薬を繰り返し一生懸命やっているのに時間だけが経過していく。患者は不安がり、苛立ち、原因のわからないまま「もう抜いて欲しい」と抜歯を懇願するかもしれない。また DR の方からあまりにも反応しない根管治療の言い訳に「もしかしたら割れているのかもしれない」と後から伝えた瞬間に転院してしまうかもしれない。初診時にあきらめる歯、あきらめない歯を診断することが結局は患者の時間と費用を無駄にせず患者との信頼関係を良好にできていると思っている。今回はエンド治療における自院で自分なりに行っている破折診断について触れてみようと思う。

略歴

- 1991 年 神奈川県立歯科大学歯学部卒業
神奈川県立歯科大学保存修復学教室助手
- 2008 年 神奈川県立歯科大学口腔医歯学系口腔治療学講座歯内療法学分野講師
- 2014 年 神奈川県鎌倉市で「鎌倉デンタルクリニック」開業
- 2014 年 神奈川県立歯科大学口腔医歯学系口腔治療学講座歯内療法学分野特任講師
- 2016 年 神奈川県立歯科大学臨床教授・神奈川県立歯科大学附属横浜クリニック非常勤

鎌倉デンタルクリニック 院長
関東歯内療学会副会長・常任理事
日本顕微鏡歯科学会理事
日本歯科保存学会評議委員
日本顕微鏡歯科学会認定医・指導医
日本歯科保存学会専門医
日本口腔顔面痛学会指導医

第2回講演

抜歯になっても「納得・満足」の 歯内治療を目指して

和達 礼子 先生

講演概要

適切な検査や診断により、患歯や診断名はひとつに決まる。しかし、処置法となると常にひとつとは限らず、歯科医師が学問的に妥当なものを選択しても、患者が同意しないこともある。殊に、抜歯になる場合は受け入れられにくい。

歯内治療家は、高度な技術を駆使し歯を保存することを求められる。しかし、患者が納得して自ら処置法を選択し、満足して次の処置を受けられるようにすることも、大切な役割である。本講演では、そのためのポイント述べる。

略歴

1993年 東京医科歯科大学歯学部卒業
東京医科歯科大学大学院歯学研究科入学

1997年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了

2001年 現東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 歯髄生物学分野 助教

2003年～2005年 文部省在外研究員として米国テキサス州立大学サンアントニオ校歯内治療学講座に派遣

2016年 東京医科歯科大学退職
マンダリンデンタルオフィス開院

マンダリンデンタルオフィス 院長

日本歯科保存学会 認定指導医

関東歯内療法学会 常任理事

日本顕微鏡歯科学会 評議員

日本歯科薬物療法学会 理事

第 3 回講演

歯内療法専門医が伝える 保存の限界点

澤田 則宏 先生

講演概要

AAE の HP には、「Endodontists are specialists in saving teeth」という記載があります。歯内療法専門医は多くの歯を残すことができます。しかし、すべての歯を残せるわけではありません。歯内療法専門医でも迷う保存の限界点、その時何をし、何と説明するのか、実際の症例をみていただき解説します。はたして限界点は歯にあるのか、.... それとも....

略歴

1988 年 東京医科歯科大学歯学部卒業
1992 年 東京医科歯科大学大学院修了，歯学博士
1992 年～1995 年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 医員
1995 年～2000 年 東京医科歯科大学歯科保存学第三講座 助手
1997 年～1998 年 米国ペンシルベニア大学歯内療法学講座 留学
2000 年～2002 年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
口腔機能再構築学系摂食機能保存学講座歯髄生物学分野 助手
(大学院重点化による所属変更)
2002 年 新宿区四谷にて澤田デンタルオフィス開院
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
口腔機能再構築学系摂食機能保存学講座歯髄生物学分野 非常勤講師

日本歯科保存学会 歯科保存専門医，評議員

日本歯内療法学会 歯内療法指導医，診療ガイドライン委員会
副委員長

日本顕微鏡歯科学会 認定指導医，理事

関東歯内療法学会 常任理事

American Association of Endodontists

第 4 回講演

歯の保存の限界 — 根管再接着法を併用した意図的再植法 —

西田 太郎 先生

講演概要

超高齢化社会を迎えている日本では、口腔内環境の向上は喫緊の課題とされる中、う蝕や歯周病、破折で歯を喪失することは避けられない。事実、8020 推進財団の調査では、破折で歯を喪失した割合は平成 17 年が 11.4%、平成 30 年度が 17.8%であった。現在、齲蝕や歯周病は予防法が確立されているが、破折の予防や予知は困難である。今日、本講座で行った破折歯に対する接着技法を用いた根管再接着法と意図的再植術の術式と経過を供覧する。

略歴

2009 年 日本歯科大学生命歯学部 卒業
2014 年 日本歯科大学大学院生命歯学研究科（歯科保存学専攻）修了
2015 年 日本歯科大学生命歯学部 歯科保存学講座 助教（現職）
2017 年 関東歯内療法学会 常任理事

日本歯科保存学会 専門医

日本歯内療法学会 専門医

AAE International member

